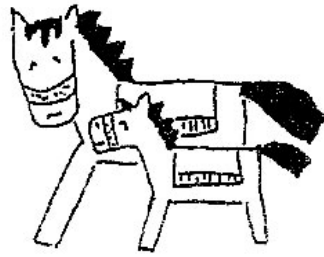


お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと



令和2年 8月 NO.309

〒760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松第二保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
http://oumanooyako.sakura.ne.jp/

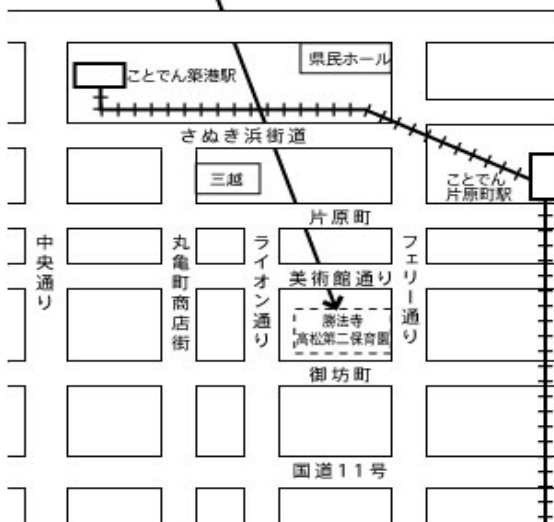
(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		8月の主な活動	～お気軽にどうぞ～
8月 7日 21日	金	うたうたい「カラヴィンカ」 19:00～20:30	疲れをとる体操をして発声すると 声がよく出ます。どなたでもどうぞ。
8月 8日 29日	土	体験保育 10:00～12:00	広い部屋で室内あそびをします。 どうぞおいで下さい。
8月 22日	土	おとなアート 14:00～16:00	夜空に輝く月やススキ、雲や空気感を 和紙で表現します。
8月 31日	月	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	勝法寺(真宗)副住職にお盆やお彼岸、法事の 心得など身近な仏事について話を聞きます。

・火～土の9:00～18:00までは、園内開放して
いますので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談(月～土)9:00～18:00
しつけや子育てについての悩み、保育園生活
入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2
地域子育て支援センター



金子みすゞ全集⑥
「さみしい王女・下」より

お朔日(ついたち)
お朔日、お朔日、
とてもきれいな朝の空、
きょうから私は単衣(ひとえ)です。
お朔日、お朔日、
お巡査(まわり)さん、
黒い喪章(もしょう)が
目立ちます。
お朔日、お朔日、
晩にや坊さまおいで
です、
あとでお菓子がさが
ります。
お朔日、お朔日、
とてもすてきな日和
(ひより)です、
きょうから町は夏
でしょう。



高松市医師会看護専門学校^の学生さん 42 人（うち 20 人男性）が 6/25～7/17 まで 2 日間ずつの保育実習をしました。実習したクラスについて、学生さんの考えや理解できたことなどを実習記録からご紹介します。

☆ことり（乳児）

《食事の援助について》 スプーンを使用し、一口サイズになるよう調整した。口の周りについてごはん粒も自分で取って食べたりしており、それを見守ってあげることも援助の一つであることが分った。おcaずに季節を感じるができるゴーヤが入っており、苦くて嫌いな子どももいるのかなと思しながら援助しましたが、好き嫌いなく全部食べており驚きました。

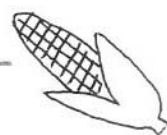
《外遊びについて》 園児たちの成長・発達に応じたバギーやベビーカーに乗ってもらい庭を散歩した。熱中症予防のために帽子を着用した。散歩中は、園児が疲れていないか、発汗して脱脱水症状はないか、皮膚の状態などに気をつけて観察した。立ち乗り式のバギーを押す際は、園児が転倒しないよう注意しながら声掛けも忘れないように気をつけた。

☆つくし（1歳） 10月～3月生 月齢が小さいクラス



《あそびについて》 棚に入っているおもちゃの中からブロックの車、ぬいぐるみ、ボール、ブロックなどを自分で選んで個々に遊ぶことが多かった。単語で「ブーブー」や「ワンワン」など話せるが、「このおもちゃがほしい」と思っても伝えられず手が出てしまうことがあった。お友達どうしで関わっている所を見たら、よく観察し、子どもの伝えたい事を代わりに伝え、ケガのないよう援助していくことを学んだ。新聞紙あそびでは、座ったり、立ったり、歩いたりたくさん動いていた。後歩きする子がいたり、本棚につかまって登ろうとしたりしていた。粗大運動でできていることを考えながら、危険予測をし近くでの見守りが大切だと学んだ。片付けができ始める時期だが、楽しい遊びを終了するのをスムーズに行うため、あそびの延長のような工夫をするだけで片付けできることを学んだ。

《衣服の着脱について》 くつ下、くつの着用では、はかせようとすると片足を持ち上げる動作が見られた。1歳をすぎる頃より、幼児は衣服の着脱に対して興味を持ち始めるが、ひとりで衣服の着脱が行えるようになるためには、知的機能に加えて、姿勢の保持や手先の微細運動などの発達が必要であることが理解できた。一方で、くつ、くつ下をぬぐ動作では、ほとんどの園児が1人でぬぐことができていた。なかには、くつのマジックテープが上手に外れず助けを求める児に対しては、少しマジックテープをはがし、ぬぎやすい状態にすると1人でぬぐことができていた。このことから、園児の行動を見守り必要な援助を行うことで自立行動につながった。



☆はと（1歳） 4月～9月生 月齢が大きいクラス

《食事の援助》 子ども達も好き嫌いがあるが、嫌いな物を食べさせるために、声かけをしたり、他の子が食べているようすを見せたり、1日毎に一口食べることを増やしたり、營

めたりして、子どもの食べてみようかなという気持ちを引き出していた。子どものモチベーションを向上させる方法を学ぶことができた。また食事内容も子どもが食べやすい柔らかさがあり、味付けも辛かったり濃い味ではなく、素材を生かした味付けにして、子どもに色々な料理、食材、味覚を身をもって味わってもらおうとしていることが理解できた。

《自由あそびについて》 部屋に置いてある玩具を使用し、ブロックをつなげたり、ボールを投げたり、絵本を読んだり、園児個人が自分の発達に合わせた玩具を用意しており、自分が持ちやすいクッションや落としても壊れにくいものを選び、玩具あそび中、園児同士の取り合いにならないよう声かけを行いつつ、トラブル防止に努める。イスの上に立ったり、机にのったりする行為は危険でありケガにつながるため、注意しつつ見守りすることも安全対策になる。



☆つぼみ (2歳)

《トイレ誘導について》 トイレの誘導は1~1時間半おきに実施し、トイレ前後の着脱の練習を行っていることがわかった。トイレ後にオムツ・ズボンの着用を促すが、その際に前後をまちがえる園児にはどちらが前であることを説明し、その後自分で着用してもらい自立を促していることを学んだ。失敗を叱ると神経質になったり、トイレに行くことを嫌がり失敗が増えることがあるため、あせらず見守ることが大切である。

《おひるねの援助》 2歳頃までの幼児では入眠までに不機嫌になったり、寝つくまで時間がかかることがあるため、興奮や不安、さびしさなどの心理的因子や気温、明るさ、騒音などの環境因子があるため、このような原因を取りのぞく必要があると理解できた。また特定の毛布やタオルを持って寝るや指しゃぶりをするなどの習癖がみられ、これは子どもなりに見つけた安心感を得るための方法であるため、無理にやめさせず、受容的に接していく。



☆さくら (3歳)

《運動》 体操では、ケガを防ぐため、十分な間隔をあけて行っていた。準備体操を行う必要性について説明しながら、みんなが楽しんでできるように一緒に声を出して数を数えながら行っていた。その後、平均台、ボール、マット、ユニボーでは男の子チーム、女の子チームに別れて、各チーム1人ずつ行っていた。他の子がしている間、座って待つという静と動の動きをとり入れることで、遊びを通して集団生活での基本的習慣の獲得を図っていた。他の子を応援したり、一列に並んでいる前の子がいなくなったらつめるなど、初めは保育者が促していたが、だんだん子ども同士で言い合いながら行っていた。

《切り紙について》 ハサミを使用するのも今までの3回目程度であり、まずは色々と切ったりする際の便利なものと教える前に、危険なものなので使用する際には十分に気をつけて使用しないといけないことを教える必要がある。大人に対しては何も考えなくていいことが子どもにとっては、リスクをとめないいうため、理解しておくことが大切である。



☆ほし (4歳児)

《園児同士の関係》 特定の子ども同士が何度もけんかしたり、仲直りを繰り返していることに対しては、園児が他者を意識し、自身の考えを持っているからこそ、トラブルになるのだと考えられる。よってけんかが悪いと注意するのでは解決とはならない。個人個人から話を聞くため、2人を一度はなし、実際に起きたこと、自身の思い、相手の気持ちを聞くことが大切である。4~5歳児は、集団あそびまでまだ移行しきっていないため、けんかなどを通じて他者を理解する成長の段階であると考えた。

《外あそびの援助について》 ジャングルジムやうんてい、三輪車、フラフープ、ボールあそび、鉄棒など複数のあそびを交代しながら遊んでいる。

平均台を使用し、男児・女児に分れて両端からスタートして出会った所でジャンケンを行い、勝った方は進み、負けた方は平均台の後に戻るといったジャンケンゲームを行っており、単に体を動かすだけでなく自分たちでルールを作るあそびを行っていた。友人との交流や創造性が育つよう多様なあそびを取り入れてルールあるあそびなどを楽しめる環境づくりが大切だと考える。

遊び道具をそのままにしていたり、平均台をひっくり返したりした際は、その行為を行った園児を注意し、その園児に片づけを促したり、危険なことを伝え元通りに直すことが重要であり、ダメなことはその場で正していくことがルールを身につけるために重要であると考えた。

☆すみれ (5歳児)

《あいうえお教室について》 小学校の授業に備えて、平仮名の書き順や止め、はね、払い、といった細かいところ、数の差の理解などを学習していた。平仮名のゲームでは記憶力をいかすゲームを行っていたが、幼児後半から学童期にかけて記憶の発達は著しいため、児の記憶が容量の増加に効果的であると考えられる。就学に向けて、長時間の集中や基本的な学習能力を身につける必要があり、できていない児にもできているとほめて、やる気、集中力を維持することと、何ができていないのか、児に気づいてもらえるような関わりが重要であると考えられる。学生の声かけにて児が手本を見ながら「り」と「い」のちがいを明確にして書けていたため、児の学習につながる声かけができた。

《保育参加—植木鉢づくり》 子ども達はペットボトルを用いて植木鉢を作る際に、はさみを使う場所、マジックを使う場所を決め、デザインを行っていたが約束を守ることの大切さや、それをしてはいけない理由を理解して取り組むことができた。約束を守れるといった発達段階を理解することができた。また、保育者がしてはいけない理由(マジックをマットのある所以外で使用してはいけない理由など)を直接言うのではなく、質問をすることで、子ども達に考えさせることを促していくことが大事であることを学んだ。

